

1. 活動報告（事務局 記）

- 11月1日（日）会員14名および市民センター岡崎さんが参加し、湿地帯のガマ引き抜き、水車水漏れの修理、須賀河内川および観察路周辺の草刈り、水路清掃の作業を実施しました。
- 11月12日（木）北部支援センターの岡崎さんご指摘・支援のもと、蓮池周囲のイノシシ掘起しの縁の修理を行いました。富さんにて急遽竹杭を製作していただき、午後より3人（原田会長も）で修復しました。管さんによる看板の塗装も同時行われました。
- 11月13日（金）イベント展示品の品々を原田前会長宅と林元会員宅（古林館）より奥様立ち合いのもと、前会長宅より10種14個、林元会員宅（古林館）より4種お借りし吉富会員・小林会員・原谷会員・原田会長・会備品の約30点以上田んぼに搬入しました。なお借用した展示品はそれぞれ目印の紐をつけ返却するとき解り易くしております。参加された方 原谷・管・河本・吉富・藤井・渡邊・原田と支援センター岡崎さん8名でした。
- 11月14日（土）会員14名とセンターの岡崎さんが参加し、湿地帯の除草、階段の修復、草刈り（駐車場他）、観察路の整備の作業を実施しました。
- 11月15日（日）イベント看板パネル・コーナパネル製作設置（原田会長）
- 11月16日（月）北部支援センターの岡崎さんご支援の下、原田会長とで溜池ゾーン縁の竹囲いの修復がなされました。竹杭は吉富会員が作成持込で溜池回り完了しました。春に「中電」にて採取した孟宗竹は全数使用し残りは全くなくなりました。また、14日に修復したイノシシ被害場所が又もや掘り起こされて修復しました。いちごっこでなくイノシシごっこです。前田会員もエコアップも行われイベントに向かって活動が進んでいます。
- 11月21日（土）センターの岡崎さんと辻野新会員により、真砂土を軽トラック4台運搬搬きました。
- 11月22日（日）会員14名とセンターの岡崎さんが参加し、観察路の整備（真砂散布、竹を用いた岸辺整備）、水路整備、細工に用いる藁準備の臨時作業を実施しました。
- 11月27日（金）15名の会員が参加し、二十周年記念イベントの準備作業を行いました。

— 1 1月28日(土) 創設20周年記念イベントを支障なく終えることが出来ました。最初に二俣瀬小学校の太鼓演奏で盛大に始め、開会式の挨拶を受けて、里山の暮らし体験として、5班に分かれてそれぞれの作業などを行っていただきました。①稲作：刈り取り以後の収穫、②昔ながらの生活(農具など)、③大豆のきな粉作り、④わら細工(母さんの夜なべ)、⑤ビオトープ20年の歩み(展示)最後に閉会式をして、会員で後片付けをしました。参加者は、二俣瀬小学校61名(子29名、親23名、先生9名)、親子自然観察隊24名(子12名、親12名)、招待者3名、宇部市関係者4名、旧会員3名、一般参加者11名、会員26名、会員関係者3名の計135名でした。

2. 今後の予定(事務局 記)

◎行事

- 12月13日(日) 維持活動
- 12月19日(土) 収穫祭準備(もち米洗米) 予定
- 12月20日(日) 収穫祭・餅つき(親子自然観察隊・二俣瀬子ども会へ配布) 予定
- 12月26日(土) 維持活動

3. 来訪者の声

今回はありません。

4. 会員の声 【20年の経緯と将来性】 (会長 原田 満州夫 記)

この度 無事創設20周年記念祭を開催することが出来ました。お礼を申し上げます。

創設20年を迎え当ビオトープ二俣瀬のシンボルの水車の故障を修復のために外部からの予算獲得を計画するに、いずれもそれなりのイベントを計画し地域の活性化を図るための条件が絡んで助勢を受けることが出来る主旨であれば可能という事で、昨年度の水車主軸本体、今年は木造部改築とクリアされ、昨年度のプレイベント・今年の本祭となりました。お蔭で今年8月には水車通水式を終えこの秋には本祭を行う事が出来ました。

創設に当たっては地域のリーダ的団体、地域の寄付や商興会からの工事援助によって出来上がったもので、山口県・宇部市の行政支援以外の力が大きかったと考えられます。

県が水環境創生事業から撤退する時に契約通り更地に戻す資金が1千万以上かかることから創設時に多大なご援助で創設されたものであると此処でもわかります。「里山ビオトープ二俣瀬」は竣工以来10年後に宇部市に移譲され、我々「つくる会」は維持管理をメインとして委託契約を宇部市から宇部環境コミニテイを介して活動を続けております。

何かの事業を開始するとき、当初は大変盛り上がり後々起こりうる難題等は考えもせず当会も70名前後の賛同する人も多かったのであるが、20年後の現在は一応30名位の会員数となっていて実活動参加は毎回10数名となっている。

当初身をもって活動された数名がご逝去され新しく参入され方は数名であり、更に20歳の加齢が活動の能力を低下されている。これをクリアしようと月2回の活動を3回に増やしたり、草刈機や運搬器材等を最新の機械化を図って維持管理の委託を続けることが出来た。

しかしながら里山ビオトープの状況は創設時と現在の状況はご存知の通り全く違って来ている。

「つくる会」が手を抜いたわけではない！どこかそれ以上に頑張ってきたと自負できるが自然の力には、恐れ入ることが分かる。そこで20年を記念し初心に戻り大きな改新工事が必要であるとする。このままでは維持管理活動の委託を解消し、他活動可能団体にゆだねることも考えなくてはならない。

5. 親子自然観察隊 「創設20周年記念祭(里山の暮らし)」 (管 哲郎 記)

「里山ビオトープ二俣瀬」創設20周年記念祭として“里山の暮らし”が特別バージョンとして計画され、行われました。およそ1か月間にわたる準備作業でしたが、原田会長以下、関係者の温かく熱心なるご支援により、何とか準備作業が終了したときには、ほんとにホッとしたものです。

当日はお天気となりましたが、気温が低く(6℃~12℃)お昼前には雲が多く寒い一日となりました。しかし寒さにもかかわらず、朝一番にオープニングセレモニーとして二俣瀬小学校の生徒による力強い「二俣瀬結太鼓」の演奏で感動し寒さも吹き飛びました。

内容は「里山の暮らし体験」ということで、以下の5項目を体験していただきました。

- (1) 稲作・刈り取り後の収穫体験(千歯こぎ、唐ミ、フルイ使用など)
- (2) 昔ながらの生活体験(農機具の展示)、説明
- (3) 大豆の殻はずし、きな粉づくり体験
- (4) わら細工(母さんの夜なべ)実演、体験
- (5) ビオトープ20年の歩み(展示)、説明

本日は、わずかな時間内にこれだけの行事をこなしましたが、参加人数に加え体験させることが多く担当者も大変だったようです。しかし、ビオトープ担当会員たちの素晴らしい手順と案内により、全く滞ることなく全員が余裕をもってご案内できたようで、内心大変驚きましたし、うれしく思いました、大成功だったと感じています。

お子達の中には、体験できずに多少残念だった子もいたかもしれませんが、短時間の間でこれだけの体験はなかなかできません、その点はご容赦いただきたいと思います。また対外的にも「コロナ渦」の中に行いましたので、必要と思われる対策を済ませました、皆様のご協力をいただき無事に記念祭を終えることができ、心より御礼を申し上げます。

これらの農器具はおよそ50年~70年ほど前までは、当たり前前に使用されていたものと聞いています。筆者も小学生のころ一部の用具を使い見えています。これらの古い用具は原田会長さんが知人や近所の農家に掛け合い集められたものが多く、大変なご努力のたまものでした。よくこれだけの品々が残っていたものだと、ここでも驚き感心いたしました。

近代化された現在の農家には、このような農具はほとんど見られないと思っています。筆者も10年前に我が家の朽ちかけた農業倉庫を取り壊し、中にあった古い農機具や臼や杵などの用具を処分しています。若いお父さん、お母さん方にはそんなに感動されないかもしれませんが、今日「田舎の歴史」を目の当たりにしたことになります。物がなかった時代にかんして自然の恩恵を受け生き延びてきたかが理解できたかもしれませんね。

後半に日照がなくなり寒かったことが気になりましたが、子供たちは元気に行事を終えてくれ安心でした。ご参加いただいた皆様、本当にご苦労様でした。



最初に太鼓演奏



千刃による脱穀



井戸からつるべにて水くみ



大豆を叩いて豆を取り出し



大豆を石臼で粉に



藁を編んで縄に

6. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 (管 哲郎 記)

(57) ミドリヒョウモン *Argynnis paphia* (タテハチョウ科)

翅を広げると黄褐色に黒の模様が入っていますが、翅を閉じると黄緑色が強くなり名前の由来が分るチョウです。♀は翅を広げてもやや緑色の入った黄土色をしています。

6月半ばより9月末ごろにかけて見られますが、数は多くありません。丘陵地の雑木林や、山地の林道などで見られます。各種のスミレ科植物が食草ですが、やや湿気た苔の生えた樹木の根元などに産卵する姿がよく見られます。日中はアザミやヒョドリバナなどで吸蜜し、♂は地上や崖で吸水する姿も見られます。



ミドリヒョウモン♂



ミドリヒョウモン♀



ミドリヒョウモン♀



ミドリヒョウモン交尾

参考文献

須田真一・永幡嘉之 他、2012. フィールドガイド日本のチョウ. 327pp. 日本チョウ類保全協会. 東京.

工藤誠也、2018. 美しい日本の蝶図鑑. 335pp. (株) ナツメ社. 東京.

7. 会よりの連絡事項

- 1) 新会員の紹介 辻野正吾さん（二俣瀬善和）
11月14日より活動に参入頂いております。
- 2) 12月の予定ですが、13日（日）に臨時作業を行い、コロナの状況を見て、収穫祭の餅つきの実行を協議します。実行となれば、19日に洗米と餅つき機などの確認を行い、20日に餅つきを行います。

8. 編集後記（大野 靖子 記）

活動を開始して15年目となる福川こどもクラブは、今年度、コロナのため活動をしていません。山口大学学生の皆さんと子どもたちが一緒に心を通わせながら自然体験活動を行っていくことが特徴の当クラブとしては、なかなか実施に踏ん切りがつかない一年でした。その中で、来月、学生さん達が山口大学探険をzoomのアプリを活用したオンラインで企画をしてくださることとなりました。ですが「オンライン」よりも、子供たちはやはり山口大学に実際に行って体験したいというのと、保護者の皆さんも、zoomはまだ慣れていないのでハードルが高いということもあり希望者は少なめです。今年度実際に体験させて頂いて、オンラインならではの良さを募集の際に皆さんにお伝えできるようにしたいと思います。しかしながら、やはり、人と自然と実際に密に接することができるという体験は貴重なものだと改めて感じます。コロナの中で、今後の活動の方針、進め方を整理していけたらと思っています。